



ミュー

男女がともにいきいきと輝き、
住んでいてよかったと思うまち「おおぶ」
住んでみたいと思うまち「おおぶ」の実現をめざそう

DV シンポジウム 朗読劇「さるかにバイオレンス」



ミューいしがせで毎年開催している「DV シンポジウム」。今年度のオープニングは、奥山和弘さんの「さるかにバイオレンス」です。内容はサルがDV 加害者、カニが被害者の情景を昔話「さるかに合戦」をもとに描いたものです。大きなスクリーンにミューいしがせオリジナルイラストが写し出され、それに合わせて朗読劇を行いました。

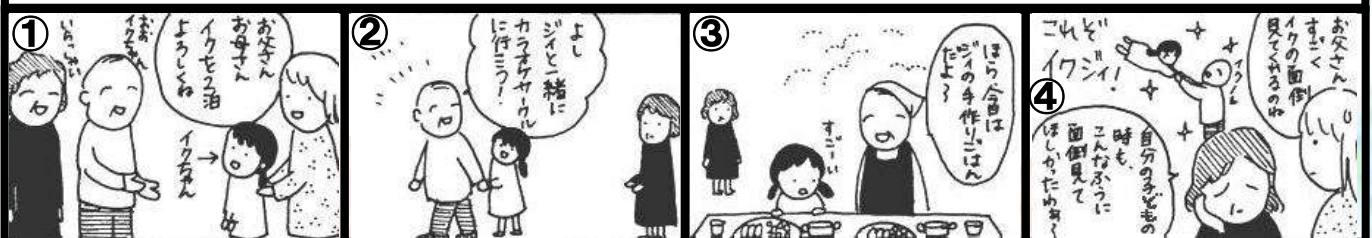


ストーリー：サルとカニは恋に落ち結婚し、子どもも授かり、幸せな結婚生活を送っていました。しかし、いつからかサルはカニに対して暴力的になり、悩んだカニは友達のクリに相談し、町の相談役である馬の「くそ」に話すことに・・・しかし、馬の「くそ」は夫婦喧嘩は夫婦で解決すべきと冷たく言い放ちました。困ったカニは・・・。

男女共同参画 啓発コーナー

『イクジイ』

作：NPO法人ミューぷらん・おおぶ イラスト/安達



オレ・私のぶっちゃけホンネトーク

夫婦がもっと仲良くなってファミリー力をアップする秘訣とは？

男と女はどう家庭で役割を担っていくと、仕事・家事・子育てがうまくいくのでしょうか？

12月6日、フリーアナウンサーの藤原淳子さんを司会進行でお迎えし、ファミリー力UP・メンズカレッジ・レディースカレッジ・子育てサロンの講座生が集まって座談会を行いました。

いろいろな世代の男女が約20名集まり、活発な意見交換がされました。



メンズカレッジ 講座生

60～70代の
リタイアをされた
男性



レディースカレッジ 講座生

60～70代の
女性



ファミリー力UP 講座生

子育て中の
夫婦、または
母親



子育てサロン 講座生

小さな子どもを
もつ母親

●70年代～80年代は女性は専業主婦が当たり前で結婚がゴール、という世の中でしたが、現在は女性も家庭を持ち子どもを持ち仕事も持つという、急激な変化が起っています。本来、男女共同参画とは女性も男性も幸せになる社会なのに、家庭の中に自分の居場所がない、妻に頼られない、など、幸せを感じない男性が約3割と女性より高い値になっています。

メンズ1

私は仕事人間でした。現役時代に自分が仕事で大変なことを妻に話をしました。理屈では分かっていても、いざという大切な時に夫がそばにいないことを理解はしてくれませんでした。妻に対し申し訳ないという気持ちもあり、仕事をリタイアした時に家庭での役割分担について話し合いました。

メンズ2

私も仕事人間で、現役時代は家庭に対する罪の意識がありました。リタイア後料理を習いましたが、家で料理をするとレシピどおりに作るわたしに妻が嫌な顔をすることがあります。妻には家事について侵されたくない領域があるのが分かってきて、最近になって妻は料理、私は後片付け、というように役割分担ができるようになりました。

メンズ3

私もリタイアしてから罪滅ぼしの意識で風呂掃除、ゴミ出し、年賀状を作ったりしています。今の時代に現役だったら、イクメン、カジメンの時代なのでもっとやると思いますが、人生の幅も広がるし。

●晩婚化が進む理由として、結婚したら女性が家事も育児も仕事もするなら大変だ、という点があるようです。

レディース1

私は女性も経済力をつけなさいと育てられました。夫の親も同じ考えで、結婚する時に夫としっかり話し合い家事の分担を決めました。

●話し合いはとても大切です。

レディース2

私は古い考えの家に生まれ、夫は亭主闖白、女は男性を立てる、夫にゴミ出しをさせるなんてもつてのほか、夫が家にいる時は外出も控えました。

●昔は男性がゴミ出しをしているとあの人かわいそう、ゴミ出しさせられてるわ、と思われましたが、今ではゴミ出しをする男性はかっこいいと思われる時代になりましたね。料理についても、男性がご飯を作るというのは生きていくための必須事項です。

レディース3

私は夫が現役時代何もしてくれませんでした。そうしたら「あなたは旦那さんよりお父さんを頼っていますね」と言われたことがあります。自分でも意識していませんでしたが、困ったことがあれば父親に話をしていました。夫はそれを申し訳ないと思っていたのか、会社を辞めた途端頼んでもいないのにゴミ出し、掃除、布団干しなどをやってくれるようになりました。別人のように変わりました。

●変わっていくことって面白いですよ。現役時代何もできず申し訳ないという思いもあったのでしょうか。では若い世代の話を聞いてみましょう。

ファミリー1

朝から昼過ぎまでパート仕事で、家に帰ってから午前中でできなかった洗濯をして、1日中動き回っている感じです。良い妻を演じていますが夫はそれを分かっていない。

●よく言われることですが、妻は家事育児のために日曜日はないが、夫は土日は仕事が休みで家でゆっくり休んで、妻の家事育児を仕事とは認めない方が多いようです。

子育て1

私は夫がチリ人でラテン系で明るく、私のことを好き！可愛い！と未だに言ってくれ幸せです。日本に帰ってきて、日本の男性はこんな風なのか、と驚きます。チリでは夫婦共働きが多く、小さな子どもがいる世帯ではお手伝いさんが家事をしてくれるシステムが整っています。

ファミリー2

私の家庭では夫は言えばやってくれるけれど自分で考えて動いてはくれない。風呂掃除を頼んでも洗い方が汚く、もう頼むのはやめました。

●そこですよ。汚くても「ありがとう～」と言うことでうまくいきます。夫の機嫌のいい時に「ここをもう少し洗ってくれたらもっときれいになるのにな」とさりげなくお願いする。

メンズ2

そうそう。頑張って洗ったのになぜ妻とこんなに価値観が違うのか、と思う時がある。ダメ出しばかりされて。

メンズ1

僕は血洗いをして洗剤の使用量が多いって怒られる。

●私の夫もいっぱい使います。でも、それぞれ自分のやり方があるので、相手を認め、口出しはしません。

子育て2 私の夫も言ったことは出来るけど気は回りません。細かく説明をしないとできないのは父親も同じで、母親は「男とはそういうものだと思って」と教えられました。でも、私にはいつか自分のやりたいことを仕事にしたい夢があり、結婚のときに夫に話をしたら理解してくれ、今でも自分が大変で爆発しそうになると察知してくれて「毎日大変だよ、ありがとうね。」と言ってくれます。

●パートナーのひとことって大切ですよ。これで明日も頑張ろうと思える。

ファミリー3 私の夫は良く動いてくれ、疲れて私が寝ると朝、お皿が洗ってある。ありがとうと素直に伝えていません。

●夫が家事など何かしてくれた時、ごめんなさい、すみません、という言葉より、「ありがとう」と感謝を伝えることは大切だと思います。

ファミリー4 我が家ではパパは土日昼まで寝てリフレッシュするタイプ。土日は休ませてあげたいという思いもあるが自分は土日でも家事育児で大変。

●奥様がそういう思いでいたことはご存知でしたか？

ファミリー4夫 気付いていました。ただ、どこまで家事に手を出していいのか分からなくてやれていないかな。もう少しやってあげたいという思いもあるし、やってほしいと思われているのも分かっている。

●共働きの女性が多くなっていますが、職場でそれを感じることはありますか？

ファミリー4夫 以前会社でもワーク・ライフ・バランスの一環として定時に帰る日を設けていましたが、それもうやむやでなくなってしまいました。職場で女性が多く働いていて大変さは感じているし、自分がイクメンでないといけないプレッシャーも感じています。

●男性が育休を取りたくても取れない社会です。女性が今後活躍して行くためには今のままでは無理がありますよね。お子さんと接するのは楽しいですか？

ファミリー4夫 一人目はどうしていいかわからない事もあったけど2人目はとても楽しいです。

●そうですね。育児は女性だけが一人占めするものではありません。男性から育児の幸せを奪うのはやめなければいけないし、夫婦ですることによってより楽しみが増えます。

ファミリー4 夫には残業をやめて早く帰ってきて育児に参加してほしいけれど、私は専業主婦なので夫の給料が減るのは困る。まだ子どもが小さいから自分も働けないし。

●難しい問題ですね。でもゆくゆく女性も働けば、今まで1本の大黒柱だったものを2本にしてお互い支え合っていけば楽ですよ。60歳を超えて変わる男性もいます。女性も「夢」を追える時代になってきました。縁あって結婚してお互い人生の最大の応援者としてやっていけるといいですね。では、最後に意見があればお願いします。

メンズ1 若い方たちが必死に生きていることが分かりました。これからも夢をもって生きて行かれたらと思う。

子育て2 悩んでいることは皆同じなんだな、と分かりました。夫と先日ケンカをした時に「もっと言ってよ。もっと手伝いたい。」と言ってくれました。もっと話をすることが大切だと分かりました。今は子育て中で社会と断絶されている状態なので、もう少し手が離れたら仕事に出て社会と関わり合っていきたい。夫とは一歩ずつ日進月歩で歩み寄りたい。

レディース2 私はずっと介護をする生活が長かったけれど、もし皆さん、介護を今後しなくてはならなくなったとしても、決して自分の大切な夢や仕事を手放さないようにして下さい。

メンズ2 子育てについて、僕らやまわりをまきこんでいけばいい。頼めることはどんどん頼めばいいんじゃないかな。自分たちだけで解決しようと思わなくていい。

●所詮夫婦は別々の人格の人間です。相手を理解しようと思うと無理が生じます。だから、理解しようと思わなくてもいい。でも、相手を知ることにはできます。こういう人なんだ、と知れることは相手を思いやることにつながります。それにはやはり夫婦間のコミュニケーションはとても大切なことですね。

参加者のひとこと

☆自立は「一人できる」ことだと思っていました。人に頼ること、自分ができることをする。そんな力を抜いた感じでいいんだと感じました。人と自分の違いを受け止める。知る。認める。そうして行けたら楽しいし楽だろうな♡(ファミリー)

☆夫婦で会話をする。相手を理解することはできない。しかし知ることにはできる。という言葉はこれからもずっと心に留めておきたいと思いました。今日はいろいろなお話を聞いて本当に良かったです。ありがとうございました。(ファミリー)

☆いろいろな方の話を聞くことで、同感できる所や、色々な考え方を知ることができ、とても参考になりました。(ファミリー・夫)

☆普段生活していて、なかなか聞けない話が聞いて良かった。考えていることはみんな同じだと思った。(子育て)

☆人は相手に対して小さな気付き(思いやり)で、とても嬉しい気持ちになる。そして「ありがとう」と言う言葉を添えたいです。夢は持ちたい、皆一緒なんだなあ～と自分を安心させることも大事。“人は他人を理解できないが、認めることはできる”自分に言い聞かせます。(レディース)



第10回 DVシンポジウム

STOP! DV

暴力のない社会を目指して

夫や恋人からの暴力「ドメスティック・バイオレンス（DV）」の実情について幅広く知ってもらうために、今年度もミュージアムにて「DVシンポジウム」が開催されました。10回目となる今回は、女性と子どものライフケア研究所主宰・日本福祉大学教授の長江美代子さんをお迎えし、「DVと性暴力・街角メンタルヘルスの実情」というテーマで講演をしていただきました。

DVと性暴力～街角メンタルヘルスの実情～



女性と子どもに対する暴力に取り組む



長江 美代子さん

長江さんが女性と子どものライフケア研究所で行っている「街角メンタルヘルス」とは、個人や家族の心や身体の健康問題に加え、暴力や虐待、経済的問題など、複数の問題を同時に抱えている方のために、健康医療福祉機関のネットワークを作りながら適切な機関へ相談者を紹介し、連携しながらフォローする活動のことです。中でもトラウマケアチームによる暴力被害者の心的外傷後ストレス障害（PTSD）の治療やケア、支援者等の育成にご尽力されています。

例えば、夫から暴力を受けた母親、またその子どもが受ける精神的影響、親子のトラウマは想像以上に深刻です。適切なケアがなされなければ、たとえ離婚ができたとしても、いつまでもDVの恐怖による後遺症に苦しみ、社会生活が困難な場合も少なくありません。だからこそ、きちんと寄り添い健康的な親子関係を取り戻せるまで、サポートすることが大切です。

浮かび上がった支援の課題

暴力被害者の心的外傷後ストレス障害（PTSD）については、まだ、知識・理解が浸透していない現状があります。それは、周りだけでなく、被害者本人も、自分がPTSDに苦しんでいるという自覚がないまま、なぜ、社会生活がうまくいかないのかと苦しんでいる場合がほとんどです。本人に自覚がない場合、なかなか支援の場へ自ら行動して行くことがない為、その様な人にどのように手を差し伸べていくかが課題となります。また、暴力の世代伝達を断ち切るために、周産期への介入は必須です。そして、今回のテーマである性暴力については、このPTSDの発症率が極めて高いと言えます。人には話せない、精神的ショックが大きいなど様々な理由があげられます。性暴力に対しては個人の力ではサポートに限界があります。医療・司法・行政のワンストップシステムのような体系的な取り組みが必要であり、サポートしてくれる拠点病院を増やすことが課題です。

私たちにできること

今回の講演で、暴力被害者の心の傷は私たちの想像以上に簡単には回復できないことがよく分かりました。また、親の暴力の中で育つ子ども達も同じように、心に傷を抱え、それが発達障害や適応障害に発展することもあります。このような事で悩む人がひとりでも減る様に、支援の輪を広げていくことが大切です。また、この講演を聞いた私たち一人ひとりが、自分は何もできないと思わずに、身近な人たちに今回の話を理解してもらい、伝えていくことが将来的にグローバルな解決へと繋がると信じ、行動していきたいものです。

参加者のひとこと

☆講演を聞いて身体的な暴力意外でも、言葉や態度の暴力で PTSD になることが理解できました。

世代伝達を断ち切ることが大切だとよく分かりました。

☆DVについて事例が聞けてよく理解できました。自分がどのように関わるか分からないため、意識を高く持つことが大事ですね。

☆DVが子どもの成長に大きな障害になることを知れたことが良かった。

☆DV件数を一件でも減らすことが、社会構造も変えていく。今回学んだことを今後地域でどう役立てていくか考えていきたいです。



性暴力支援センター 日赤なごや

TEL:052-835-0753(なごみ)



平成 28 年 1 月 5 日より活動開始します。

24 時間ホットライン体制です。

ミュージーがせ相談室

女性の悩みごと電話相談

電話番号:0562-44-9117

女性が直面する様々な悩みについて、相談員が解決のための一歩を踏み出す応援をしています。ひとりで悩まず気軽にお電話下さい。

専門相談員による女性のための面接相談日

※ 2月 1日(月)・15日(月)

※ 3月 7日(月)・22日(火)

弁護士による女性のための法律相談日

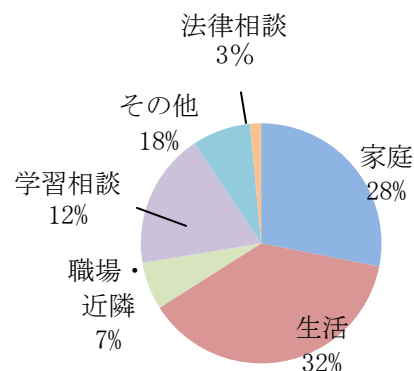
※ 3月 9日(水)

面接相談・法律相談は予約制です。

◆ 相談件数 ◆

	10月	11月	12月
電話	59	38	29
面接	12	25	6
その他	2	11	21

相談件数件 (内 DV 131件)





みんなで外へ出かけよう

芋掘り&焼き芋パーティー



10月24日(土)に子育てサロンとメンズカレッジ男楽会と合同で、芋ほり&焼き芋パーティーを行いました。

家族連れが大勢あつまり、ぼかぼか陽気の中作業をしました。

大きなお芋が掘り上がると子ども達の中からは「わあっ、見て〜!」と歓声があがり、得意そうに芋を見せてくれました。

お昼ごはんは講座生の握ったおにぎりとその場で煮込んだ芋煮と本格的な石焼き芋。ピクニック気分、良い家族団欒の場となったようです。



講座生はおにぎりや芋煮の用意してから出発です。



こんないっぱいおイモがとれたよ!



沢山の方にご参加いただきました。



男楽会の皆さん、浅田吉恵さんありがとうございました。



ファミリーカUP講座 ママに感謝のフレンチ〜パパと一緒に料理してママを喜ばそう〜

11月21日に異世代交流館館長の浜島周さんをお迎えし、パパと子どもの料理教室を行いました。

パパが参加できないおうちではママと一緒にクッキング♪メニューはシュウマイとザーサイ・トマト・豆腐のスープ。子どもとパパたちは慣れない手つきで一生懸命材料を刻み、初めてのトマトの湯むきもこなしました。蒸し上がったシュウマイは大粒でとても立派!!

モクモクの蒸し器の蓋を開けると、子どもからも大人からも「おいしそう〜!」と声が上がりました。

料理の間、ママたちは別室にて平岩けいこさんによるアロマハンドマッサージの講座を受け、お互いにマッサージを行いました。

お部屋の中はアロマの良い香りでまるで異空間。いつも忙しいママ達に少しはくつろいでもらえたでしょうか。

料理が終わると家族そろってランチタイム。

子どもと夫が一生懸命作ったご飯を食べ、ママたちにとって良い思い出の日になったようです。



子どもたちの感想。絵でとても楽しかったことを表現してくれました。

≪講座生の感想≫

- ・家で料理を作ってもらったことが今までなかったのでとてもうれしく思いました。(母)
- ・子どもと料理を作るのに十分な時間で向かい合えたことがラッキーでした。(母)
- ・もっと家事を勉強しようと思いました。(父)
- ・スープもシュウマイもおいしかったです。ほうちょうがとくいになりました。たのしかったです。(子)
- ・思っていたよりかんたんだった。とてもべんきょうになった。たのしかった。「また作りたいなあ」と思った。シュウマイつつみがたのしかった。(子)





料理は全部、ぼくに任せて



メンズカレッジ・男楽会ドキュメンタリー映画出演！

厨房男子 企画・製作・監督：高野史枝

ミュージーがせで映画講座の講師である映画評論家の高野史枝さんの初監督作品「厨房男子」が完成しました。定年を迎えた男性や共働きのサラリーマンらが料理に取り組むドキュメンタリー映画です。その中で、ミュージーがせで活動しているメンズカレッジ・男楽会も出演しており、夏まつりでのコロッケ作りと販売の様子が描かれています。

～料理を通じた男性の自立の実践～

ミュージーがせにメンズカレッジが誕生して20年。社会の動向・仲間づくり・料理や家事講座、地域参加など、様々な講座を講義と実技を交えて行っています。今回のドキュメンタリー映画の中で、メンズカレッジ・男楽会メンバーが本当にイキイキと輝いています。料理を通して、家族や友人と良いコミュニケーションが生まれます。映画「厨房男子」のテーマは、ミュージーがせの実践とピッタリ重なっています。ぜひご覧ください。



大府市でも上映決定

第27回 あなたとわたしのつどい

とき：平成28年2月20日（土）
9時45分～15時15分（9時15分 開場）
場所：大府市勤労文化会館（もちのきホール）
主催：おおぶ男女共同参画ネットワーク

入場無料

午前の部：講演会
「それぞれが自分色に輝く社会を」
講師：落合恵子さん
午後の部：映画上映と監督のトーク
「厨房男子」

＊ふれあい広場～みんなが集う、学ぶ、語り合う場 ミューいしがせ～

いも煮会

12月3日(木)にミューいしがせにてハーブを楽しむ会とレインボーハウスの子どもたちで毎年恒例のいも煮会を行いました。
いも煮の他に炊き込みご飯やおにぎり、たくさんの種類のお惣菜を作りました。
大勢で一緒にご飯を食べ、とても楽しい時間となりました。



お礼のお手紙が届きました。

《子どもたちの感想》

- ・今日は本当にありがとうございました！作り方など1つ1つ丁寧に教えて下さったおかげで上手に作ることが出来たし、皆さんと一緒に食事が出来てとても嬉しかったです。また、機会があれば是非よろしくをお願いします。
- ・この度は芋煮会に参加させていただき、ありがとうございます。私は初めての参加だったのですが、皆さんとても料理が上手ですごいなあと感じました。家で料理する時は、今日の経験を活かしたいと思えます。とても楽しかったです!!

年末大掃除について

12月19日(土)に恒例の石ヶ瀬会館の年末大掃除を行いました。各利用団体の皆さまにご参加いただき大変きれいになりました。
ありがとうございました。



掃除の後はすいとん汁やシフォンケーキの振る舞いがありました

＊会員募集

新年度の会員募集を3月から行います。
ご協力よろしくお願いいたします。



ご意見・ご感想を
ミューぷらん・おおぶ
までお寄せ下さい。
問合せ先のTEL・
FAXまでどうぞ!



NPO法人

ミューぷらん・おおぶ

問合せ先 〒474-0035
大府市江端町4-1 石ヶ瀬会館内
TEL: (0562) 48-0588
FAX: (0562) 44-9144

HPアドレス: <http://www.medias.ne.jp/~myuplan/>
Eメール: misigase@ma.medias.ne.jp